1	事業名称	幼稚園・伊	· 保育園支援事業			
2	新規・継続	継続			6 年目	
3	趣旨	当青少年自然の家周辺の自然環境を活かした幼児の自然体験活動プログラム の研究開発を行い、幼児期における自然体験活動の普及をはかる。				
	期日・期間	回数	実施日	回数	実施日	
		1回	9月18日	12回	10月10日	
		2回	9月19日	13回	10月11日	
4		3回	9月20日	14回	10月15日	
		4回	9月25日	15回	10月16日	
		5回	9月26日	16回	10月17日	
		6回	9月27日	17回	10月18日	
		7 回	9月30日	18回	10月21日	
		8回	10月1日	19回	10月22日	
		9回	10月2日	20回	10月23日	
		10回	10月3日	21回	10月23日	
		110	10月4日			
5	実施場所	国立信州高遠青少年自然の家				
6	募集人数	各回 保育園・幼稚園年長(年中)児クラス				
7	共催・協力・後援	後援:長野県教育委員会協力:松本短期大学				
8	参加者人数	3回 明星保育 4回 飯田中央 5回 飯田中央 *4回目 6回 瑞穂幼稚	:幼稚園(31名) 園(35名) 保育園(18名) 保育園(17名) と別クラス 園 岡谷(22名) 保育園諏訪(18名) 育園(18名) 園(28名) 園(22名)	15回 伊那東保 伊那北保 16回 聖クララダ 17回 美篶西部 18回 柏木保育 19回 上の原保 20回 今井保育	「保育園(21名) 「園(48名) 「育園(31名) 「育園(45名) 」 「財団(39名) 「日間(29名) 「園(15名) 「南国(48名)	
9	参加者類型	幼稚園・保育園	幼稚園・保育園年長児 593名(20園22クラス)			
10	参加者地域	長野県内 593名				
11	参加者分析	・新規申し込み園が4園で、昨年より減少した。 ・午前と午後で活動時間を分けて、年中と年長の2学年が参加できるようにす る園が増加した。				
	アンケート満足度	満足	やや満足	やや不満	不満	
12		100.0%	0.09	% 0.0%	0.0%	
13	アンケートの主な記述	・日頃できないた。・「冒険の森」然体験になった・指導者の説明	の活動だけでなく、周	子どもたちは思い 辺の森の道を散気 な対応をしていた。	いっきり体を動かしてい 策するだけでも十分な自 ただいた。	

14	成果	松本市、箕輪町広く浸透してい ・松本市からの 会の中で働きか	「規申し込み園が5園であったが、今年度は、岡谷市、伊那市、「の4市町4園の新規申し込みがあった。着実に本事業の趣旨がいると考える。)新規申込みは、2回目の参加となる松本の園長が昨年度の園長いけて下さったことも影響している。 日先生・山浦先生の協力を得て、より充実した支援事業を展開で			
15	今後の課題	も限られてくる たり、活動場所 ・上記に関連し	間間が9月~10月という限られた期間であるため、参加園の数。。今後の新規申し込み園の増加をふまえると、指導者を増やし 「を増設したりすることを検討しなければならない。 して、「冒険の森」のロープを張る木の耐久性を考えると、新た なければならない。			
16	担当者メモ	・指導にあたる担当者がタイニーキャンプも担当しているため、キャンプ翌日に本事業を担当することもあった。体力的な負担と勤務シフトを考えると、多くの職員が直接指導ができる体制が必要である。				
	プログラム展開(各園共通)					
	日程・時間	プログラム	備考(講師等)			
	10:00	入所・はじめの会	国立信州高遠青少年自然の家職員			
17	10:30~12:00	森のくまさん ピョンピョンうさぎ サルの川わたり	国立信州高遠青少年自然の家職員 松本短大研究生			
	12:00~13:00	昼食	国立信州高遠青少年自然の家職員			
	13:00~14:30	コアラの木のぼり 自由遊び	国立信州高遠青少年自然の家職員 松本短大研究生			
	14:30~15:00	終わりの会	国立信州高遠青少年自然の家職員			
	15:00	退所	園職員			

















